

住んでいいまち、訪ねていいまち、なかさつない

農村景観ガイドプラン

北海道中札内村



一本山展望タワーから見た中札内の田園風景

は じ め に

人にはそれぞれ個性があるように、まちにも独自の個性があります。

私たちは、これからどんな村を、次の時代へ残すのか、今真剣に考えなければならない立場にあります。

この計画は、村の個性を考え、中札内村の将来あるべき目標像（イメージ）を見定め、そこに行き着くまでの、景観形成の手引きを得ることを、目的にしています。

このガイドプランでは、具体的な方法をのべ、皆さんがそれぞれ何ができるのか、自分の場合はどうするのかを考え、議論できる資料となっています。

このガイドプランをもとに、今後村民の皆様と、住みよい農村景観づくりを、進めていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成 5 年 6 月

中札内村

目 次

1. いま、なぜ農村景観なのか.....	1
2. 景観形成を進めるための、2つの目標.....	2
3. 景観を形づくるための、姿勢と目標.....	3
4. 景観の特性と景観形成のための基本方針	
(1) 自然景観ゾーン	
景観要素と特性.....	4
景観形成の基本方針.....	5
景観形成のイメージ図.....	6
(2) 田園景観ゾーン	
景観要素と特性.....	7
景観形成の基本方針.....	8
景観形成のイメージ図.....	9
(3) 市街地景観ゾーン	
景観要素と特性.....	10
景観形成の基本方針.....	11
景観形成のイメージ図（商店街）.....	12
景観形成のイメージ図（住宅街）.....	13
5. 景観形成の手法	
①修景整理 ②修景緑化.....	14
③修景装置 ④修景建築 ⑤修景色彩.....	15
6. 景観と色彩	
自然景観ゾーンのカラー分析.....	16
田園景観ゾーンのカラー分析.....	17
市街地景観ゾーンのカラー分析.....	18
中札内村の色彩計画.....	19
7. 景観形成のモデルケーススタディ.....	20
8. 景観形成の推進計画.....	21

1. いま、なぜ農村景観なのか

●都市と、農村の役割

- ・都市には未知の世界があり、農村には山や川など、いつまでも変わらない世界があります。
- ・都市に住む人が、盆・正月に帰省するのは、山や川などに再会し、安らぎと喜びを得るためと、いわれています。
- ・農村に住む若者は、都市の暮らしを求め、都会へ出ていきます。
- ・人間が「人間らしく生きていく」ためには、都市と農村がバランスよく存在することが必要だと、いわれています。

●人々の意識は、物の豊かさよりも、心の豊かさを求めるようになってきています。

- ・有り余る物の生産から、必要な分だけを作る時代が変わってきています。
- ・人々の意識も、毎日変化する都市より、安らぎが得られる農村社会を重視するようになってきています。

●農村の変化

- ・農業は今まで、生産性の向上や、生産量の増大が求められてきました。
- ・これからの農業は、食糧の安全性、自然保護、景観など非経済的な役割が、重視されるようになるといわれています。
- ・変化する社会に疲れた現代人に、安らぎを与える農村景観の創出が、重視されるといわれています。
- ・住みよいまち、いつまでも住みたいまち、住みたく・訪ねたくなるまちが求められています。

●良い景観がもたらすもの

- ・人々に、ゆとりや、うるおいをもたらします。
- ・まちへの誇りや愛着を育み、住民の生活や文化の高揚をもたらします。
- ・訪れる人々に、魅力を感じさせ、地域の評価を高めます。

2. 景観形成を進めるための、2つの目標

この目標に向かって、景観形成を進めていきたいと思います。

●「ゆうきトピアなかさつない」を合言葉に……

日本一美しい村をつくる



豊かな自然



美しい景観



おいしい農畜産物



豊富な特産品



心がきれいな人



ふれあいの場



農村文化



都会の人を
受け入れる場

3. 景観を形づくるための、姿勢と目標

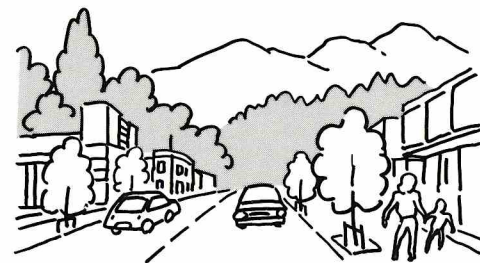
●中札内の景観は、大きく分けると3つに区分されます。



自然景観ゾーン
(札内川上流一帯)



田園景観ゾーン
(農地、防風林など)



市街地景観ゾーン
(商店街、住宅街など)

●中札内らしい景観をつくるには、4つの姿勢が必要です。

- ①景観を守る (保全)
- ②景観を見つける (発見)
- ③景観を育てる (育成)
- ④景観を創る (創造)

●景観を形づくるために、3つの目標を設定しました。



自然景観ゾーン
〔自然環境を守る〕
〔景観を見つける〕



田園景観ゾーン
〔景観を育てる〕



市街地景観ゾーン
〔景観を創る〕

4. 景観の特性と景観形成のための基本方針

ゾーンごとの景観の特性を上げながら、景観形成のための基本方針をまとめてみました。

(1) 自然景観ゾーン

●景観要素と特性



日高山脈



里山丘陵地帯



ケシウヤナギ群生地



ピョウタン牧場

- ・ 札内川園地から上流部は、国定公園に指定され、環境を保全する区域であり、日高山脈や札内川源流など、自然のままの景観です。
- ・ 札内川園地に向かう区域は狭い谷状地形であるが、豊かな自然の恵みを感じられる景観です。



札内川園地



日高山脈山岳センター



ピョウタンの滝



やまべ放流祭

- ・ 札内川園地は、ピョウタンの滝、老木、山岳センターなどの景観要素や、やまべ放流祭などのイベントにより多くの人を引きつける観光ポイントとなっています。



一本山展望タワー



一本山展望タワーからの眺望



南札内浄水場付近の村道
からの眺望



西札内牧場

・一本山展望タワーなど、少し高いところに上がると、スケールの大きな十勝らしい、景観をながめることができます。

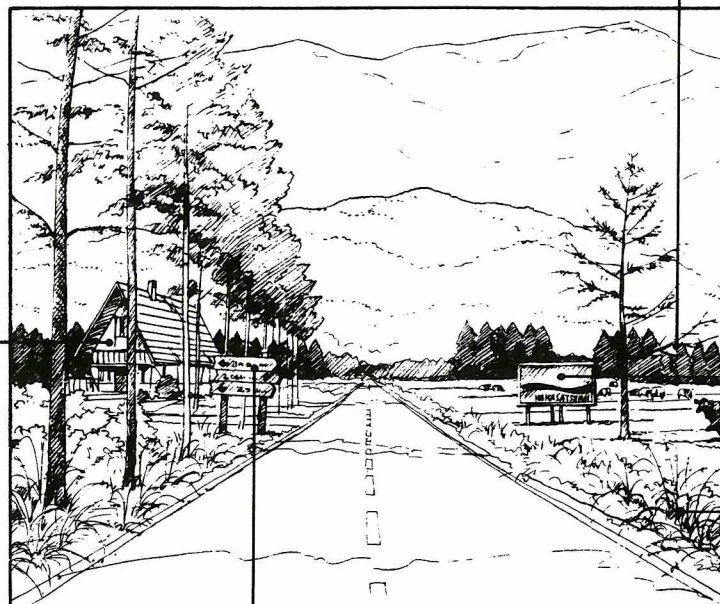
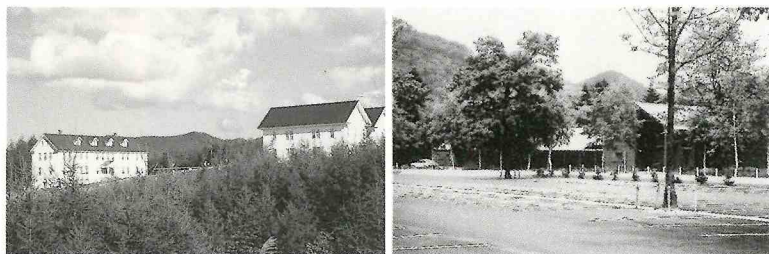
●景観形成の基本方針

- ①国定公園内は、施設整備をせず、道路標識や案内看板以外の看板類は設置しない。緑化は、自然修復のための植栽以外は行わない。
- ②札内川園地や、日高山脈山岳センターでは、周辺の自然についての認識や、自然保護の理解を徹底させる。また、ケシヨウやナギの保護のため、保全や貴重性を理解させるための説明板の設置が必要である。
- ③道道静内中札内線の沿道は、道路標識・案内標識以外の看板を規制する。また、沿道に面している工場などの建物は、樹木によって遮へいする。
- ④札内川1号砂防ダム周辺は、あまり手を加えないで整備する。
- ⑤南札内浄水場付近は、林を活かしたレクリエーション地として整備する。
- ⑥西札内防災ダムは、西札内牧場や一本山と一体としながら、眺望、森林浴、水遊びの場として整備する。
- ⑦旧ヌーナイ牧場は、自然と触れ合う教育、レクリエーションゾーンとして整備する。
- ⑧西札内林道は、観光、レクリエーション施設を巡る周遊ルートとして形づくる。

●景観形成のイメージ図（自然景観ゾーン）

修景建築

：規模を出来る限り抑える。
主に木質系や土もの系の自然素材を使って建物をつくるよう心掛ける。



修景緑化

：このゾーンは基本的には新たな植栽は行わず、既存林・既存木の保全を行うことで景観を維持していく。
：建築物の建設や道路工事を行う場合もこの事に充分考慮し、むやみに地形の改変や植栽を行わない。

修景整理

：自然景観ゾーンでは、屋外広告物を禁止する。

修景整理

：道ばたの雑草を刈り取る。但し、道路から一定巾（2～3m）とし、部分的にヤブを残しておく。

修景装置

：このゾーンでのサイン・案内板は、最低限のものにし、異なる施設でもデザインのトーン*を同じにしたい。

デザイントーン デザインの感じ

(2) 田園景観ゾーン

●景観要素と特性



農地(平坦地形)



農地(波状地形)



防風林



ふれあいの森

- ・ 広大な農地は、道路や防風林で区切られ、明るく開放的な景観を形づくっています。新札内地区では、ゆるやかに波うった畑の独特な景観があります。



国道236号線



道道清水大樹線



村道幹線



農家

- ・ 道路は、どこまでも真直に続くような道が多くあります。
- ・ 農家の建物は、色や形がまちまちです。



農家庭先花壇



札内川



ベベギリ川



ペペキキ川

- ・農家では、庭先や窓辺を花で飾り、美しい花での村づくりを実践しています。
- ・札内川は築堤で目立たず、小河川はほとんど改修されています。

●景観形成の基本方針

- ①村の入口は、看板だけではなく、農業・花・樹木に関わるもののランドマーク（目印）が必要。
- ②農家は、各戸ごとに形・素材・色を統一するのがよい。また、見苦しいものは、樹木で隠したり、家の裏にもっていく。
- ③景観の特徴づけは、並木・大木・サイロ・農機具・うねなどを活用する。
- ④波状丘陵農地は、写真・眺望ポイントでPRする。
- ⑤防風林は、保全・育成を図り、新しい防風林をつくるのが可能なところは、積極的に植栽する。
- ⑥民間の観光施設の進出には、景観づくりの精神を理解してもらい、実行してもらう。
- ⑦景観ポイントを巡るルートの明確化と、景観ポイントの整備を進める。
- ⑧花壇や窓辺の花飾りの拡大、無料の花屋さんなどで、花の村のイメージアップを図る。
- ⑨上札内の市街地は、街路の緑化が必要。
- ⑩農地を流れる小河川は、ほとんどが改修されている。農業用水機能に差しつかえない部分は、自然の小川に戻したい。
- ⑪改修されていない川は、改修計画の時点から、自然な部分を設けるように心がけ、景観になじむ水辺づくりを行いたい。

●景観形成のイメージ図（田園景観ゾーン）

修景緑化

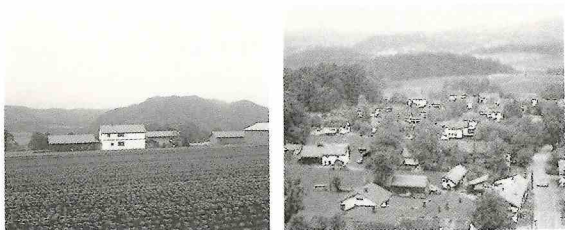
- ：農家の周囲に景観と調和する屋敷林をつくる。
- ：庭先の花壇や窓辺には、1年草を中心とした花を飾る。

候補樹種

屋敷林：ハルニレ、シナノキ、カシワ、カツラ等の落葉樹やトドマツ等の針葉樹。

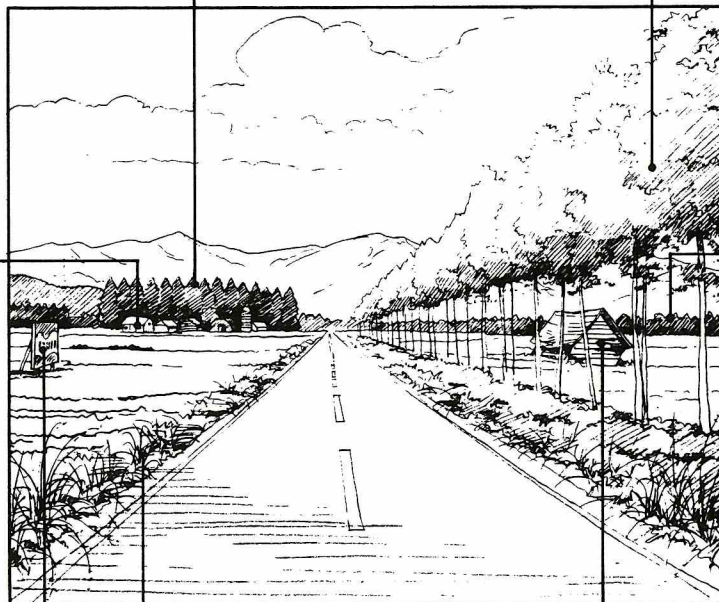
修景建築

- ：屋根や壁の素材・色彩などをできるだけ統一する。



修景整理

- ：田園景観ゾーンでは屋外広告物を制限する。



修景整理

- ：道端の雑草を刈り取る。

修景緑化

- ：農道沿いに並木をつくる場合は、奥行きのある田園景観や美しい山岳景観を遮蔽しないよう留意すると共に、路面凍結の原因となる場所は避ける。

候補樹種

シラカバ、ドロノキ、ケヤマハンノキ等
生長が速く、のびやかで素朴な十勝の景観に調和するもの。

修景緑化

- ：防風保安林を保全すると共に、新しく幹線防風林、耕地防風林をつくり育てる。

候補樹種

カシワ、シラカバ、カラマツ、トドマツ等。

修景整理

- ：廃屋・廃車を取り除く。